

NPPV ハンドブック



執筆：聖路加国際病院呼吸療法
チーム

編集：蝶名林直彦

B5 頁176 2006年
定価 3,990 円(本体 3,800 円+税 5%)
[ISBN 4-260-00070-5]医学書院刊

聖路加国際病院呼吸療法チームによる NPPV (非侵襲的人工呼吸管理)ハンドブックがついに日の目を見た。本書の編集は、私が日ごろから親しくお付き合いをさせていただいている蝶名林先生である。その内容が内容だけに、彼によれば企画から本の完成までに3年もの月日を要したという。しかし、この本をくまなく読んでみると、それは当然だということがよくわかる。

この方法が日本に導入されたのは、ほんの15年程前のことであり、従来の侵襲的人工呼吸管理そのものを根本的に見直す機会を与えた人工呼吸管理法だからである。

鉄の肺に始まり、閉鎖回路による陽圧人工呼吸管理に終始していた1980年代後半までの人工呼吸管理法に、決定的な改革をもたらしたのはこの方法によるものであった。それだけに、この療法に関する教則本の数は日本の医療界を席卷するほどあまたある。

しかし、この本の特徴はまずすべてが箇条書きに統一されているので、読者にとって大変に読みやすいことである。NPPVを導入しているこの聖路加国際病院独特の図がいたるところにちりばめられていて、きわめてその内容も具体的である。

従来の人工呼吸管理法と違って、本法は一部の医療者によって独占される類のものでは決してない。その証拠に、呼吸不全を起こしている病態に

導入されている場所が救急室，集中治療室，一般病棟，小児病棟，外来，自宅など多岐である。それだけに，本法に携わっている医療者は麻酔医，呼吸器科医，小児科医，臨床工学技士，看護師，看護ステーションケアマネジャーその他であり，これらの人々によるバランスのとれたチーム医療である。それぞれの立場から，これだけの人々に意見を募るだけでも容易ではない。編集者が最も苦労されたであろう由縁はここにある。

本法を導入するにあたっては，これらの医療人それぞれがこの方法に習熟していなければならない。決して一部の人々の特権的医療行為ではないのである。NPPVは現在，急性や慢性を問わず，呼吸不全のあらゆる分野で導入が試みられている。そして大事なことは，従来の閉鎖式人工呼吸管理法の適応条件その他が根本的に修正を余儀なくされたことである。

従来の方法に比して，何よりも廉価である。呼吸不全を伴うあらゆる病態に，禁忌条項さえなければ，まず本法を導入し，どうしてもそれが駄目なら従来の人工呼吸管理法を導入するというのが一般的である。循環器を専門としてきた医療人も，この方法を通じて呼吸器，麻酔との接点を求めているし，従来にはなかった早めの導入，すなわち「予防的導入」や「早期抜管」，術後管理などが容易となった。

本書は10章から構成されているが，どの章を読んでも余すところなく，それぞれの専門的立場から書かれており，有意義である。スタッフの時間的・物理的制約の多さ，導入の困難さ，知識や技術の必要性，適応病態，合併症その他が惜しみなく書かれているが，なお，各病院でこぞって導入すべき方法であり，また，本書はその点でも圧巻である。

この分野に携わるすべての医療人に一読をお願いしたい良書である。